東京都立大学ボランティアセンター News letter

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学
Volunteer Center
EST.2016

都立大ボラセン

Vol.1

－都立大から生まれるボランティア活動－

表紙の人

競技チアリーディングサークル
WILD BOARS（ワイルドボアーズ）

2021.12.18
第2回 単独公演
「猪祭（ぼあさい）」
開催決定!!

特集1

都立大ボランティアプログラム始動！

特集2

全国公立大学学生大会「LINK topos 2021」が今年もオンラインで開催！

I am a volunteer

節足動物についてちょっと詳しくなれる。
節足動物の魅力に触れられる。

節足動物園の開園を目指して

いきもの！サークル東京
沓掛 丈さん

特集1

都立大ボランティアプログラム、始動！

都立大独自のボランティア活動である「都立大ボランティアプログラム」がついに始動！「スポーツボランティアプログラム」「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」共通で実施した「事前学習Ⅰ」の後は、それぞれの活動が本格的にスタートしました。

昨年度に続き、新型コロナウィルス感染症の感染拡大によって残念ながら延期や中止になってしまった活動もありますが、現時点では連携団体の方々にご協力いただきながら昨年度よりも多くの、そして多様な活動に取り組むことができています。

June 26 Saturday

プログラム共通
「事前学習Ⅰ」

南大沢キャンパス 本部棟 大会議室

講師

室田 信一 先生
人文社会学部 人間社会学科 准教授
ボランティアセンター アドバイザー

「事前学習Ⅰ」は、「ボランティアプログラムに参加した自身の動機を明確にすること」「ボランティア活動についてのイメージを整理し、多角的な視点から考えること」「自身の動機とプログラムの目標をつなげて考えてみること」をねらいとして実施しています。

前半は、3～4人のグループになり、一人が語り手、他の人が聴き手となって、それぞれの参加動機を聞き合いました。質問などを交えながら自分の動機を他者と共有したり、比べたりすることによって、自分の想いや価値観について改めて考えることができたようです。

後半は、リーダー学生から、各プログラムの「活動テーマ」や「扱う社会課題」「活動概要」「活動によって期待される効果」についての説明を聞いた後、各自で参加プログラムの「社会性／公共性」について考え、付箋に書き出し、最後にワールドカフェ方式を用いて全体で共有しました。他者や他グループの視点や考えに触れたことで、ボランティア活動や社会性に対する考えをさらに深めることができたと思います。

最後に、“大都市東京をどのような街にしたいか”“その東京の中に自分をどのように位置付けたいか”について自身の考えを表現した『ボランティア宣言』を発表し合いました。来年2月に実施を予定している「事後学習」の際には、様々な経験をしたうえで、『ボランティア宣言』に込めた想いや考えがどのように変化したのかを確かめる予定です。

Voice

01 プログラムについて深く知れた。
動機を実際に他者に話すことで、更に深い思いになった。

02 自分の能力UPのためだけではなく、相手のために何かしたいという気持ちも大切だと知った。

03 スポーツの競技としての一面に興味を感じていたのが、人との繋がりに関することを学び、興味の幅が広がった。

04 スポーツのボランティアは参加したことがなかったので、どこか漠然としていましたが、スポーツプログラムに参加する人たちと意見交換することで、「人と人とのつながり」「スポーツを広める」など目標がより明確になりました。

05 自発性・社会性・無償性 3つのキーを学び、モヤモヤしていたことがすっきりした。

06 目標と想いがはっきりしてきたように感じました。今後の活動がイメージできて良かったです。

July 11 Sunday

スポーツボランティアプログラム
「事前学習Ⅱ」

南大沢キャンパス 91年館 多目的ホール

講師

信太 奈美 先生
健康福祉学部 理学療法学科 准教授
ボランティアセンター アドバイザー

増田 徹 さん
東京都障害者スポーツ協会
スポーツ振興部 事業推進課長

堤 彩 さん
日野市社会福祉協議会
日野市ボランティア・センター

この「事前学習Ⅱ」では、スポーツ・障がい者スポーツにおける歴史や特性、課題について理解し、そこにボランティアとして関わる意義や効果を考えたり、今後の活動に向けて個人の目標を設定したりしました。

まず初めに、プログラムに継続して参加している3年目以上（リーダー）の学生が1年目の学生に向けて、昨年度の活動報告をしました。その後、講師の方々のお話を通して「スポーツや障がい者スポーツとは何か」を考えたり、今後予定されている活動に関する具体的な内容について理解を深めたりしました。

後半には、実際に体を動かしながら学ぶ機会として「ボッチャ体験会」を行いました。競技名を知っている学生は多かったのですが、大半が実際に体験したことはなく、今回が初めてのボッチャ体験となりました。
今後は、東京都文化スポーツ財団と連携し、「都立特別支援学校活用推進事業」として9月に実施を予定している「ボッチャ教室」に向けて、ボッチャの基礎知識や審判を含めた競技運営に必要なスキルを習得していきます。

Voice

01 スポーツという点ばかり考えていたが、その先の活動を通して身に着けたい力などに目を向けることができた。

02 プログラムの目標は「こうしたい」という感情が先に来たものたったが、個人目標はどのようなボランティアがあるか知った上で立てる目標になり、より具体的に結びついた。

July 24 Saturday

地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）
「事前学習Ⅱ」

南大沢キャンパス 91年館 多目的ホール

講師

加藤 英寿 先生
理学部 生命科学科 助教

北出 進 さん
ひなた緑地遊学会 代表

大塚 敦 さん
総務部 施設課 管理係長

この「事前学習Ⅱ」では、松木日向緑地や周辺地域の歴史や特性、課題について理解し、そこにボランティアとして関わる意義や効果を考えたり、今後の活動に向けて個人の目標を設定したりしました。

前半は、リーダーの学生による昨年度の活動報告を聞いた後に、講師の方々から活動に関わる専門的お話をお聞きしました。プログラムのアドバイザーでもある加藤先生からは、竹林整備の方法として「伐採」「板の埋設による地下茎の遮断」「薬剤の注入」についてお話しいただいたうえで、「持続的利用」を目指すのか、「根絶」を目指すのかなど、「目的や立地条件に応じて手段を検討していくことが大切である」と教えていただきました。

後半は、リーダー学生が企画した「松木日向緑地を取り巻く社会課題の解決を目指すディスカッション」を行いました。このディスカッションでは、小グループごとにプログラムで扱う社会課題に対する解決策のアイデアを出し合い、それを企画としてまとめ、最後に全体で共有したのですが、それぞれが現在学んでいる学問からの視点なども取り入れながら考えており、総合大学ならではの学際的な議論を行うことができました。

Voice

01 加藤先生や北出さんのお話、グループワークでの話し合い、他グループの話し合いで、どのような目標に向かってどんなことをすればよいか具体的にイメージできた。

02 プログラムが目指す自然のあり方、管理の仕方が、自分の目指すイメージと重なった。

03 自然を大事にしていく・技術や文化を継承するというプログラムの目標に沿うような自分の目標を掲げることができました。

August 16 Monday

スポーツボランティアプログラム

「ボッチャ講習会」

南大沢キャンパス 7号館スタジオ

9月20日（月・祝）に都立特別支援学校活用推進事業として実施予定の「ボッチャ教室」に向けて、ボッチャ競技の基礎知識や競技運営の方法を学びました。接戦になればなるほど審判の高い技術が求められますので、ライン側やボールが並んでいる時の細かい距離の判定方法なども詳しく教えていただきました。

都立特別支援学校活用推進事業として、9月20日（月）に都立南大沢学園で開催予定だった「ボッチャ教室」は、緊急事態宣言により中止となりました。
今後は、1月16日（日）・2月13日（日）に「ゴールボール教室」を開催する予定です。

講師

神保 秀久 さん
東京都障害者スポーツ指導者協議会
副会長

Voice

01 ボッチャ教室の運営に向けて、今までになく本格的なルールでボッチャの体験ができたことはとても有意義であったと思う。審判についてもルールに則してその方法を学び、当日の運営のイメージを掴むことができた。

02 審判として、また運営をする側として、プレーするのとは違った視点から体験することで、よりボッチャへの理解が深まった。今回学んだことだけではなく、もっと自分から知識を増やしていきたいと思った。

03 プレー面では、今までゲーム中とりあえずボールを投げることしかできなかったが、今回はチームメンバーと戦略を立て試合に臨むことができた。また、審判の役割を理解し、実際に練習して確認し合えたため、スポーツ体験教室本番ではプレイヤーに不安を与えることなく自信をもって審判ができるよう取り組みたい。

August 28 Saturday

地域ボランティアプログラム （松本日向緑地プログラム）

「竹林整備」

南大沢キャンパス内 松本日向緑地

松本日向緑地で真竹を間伐し、その「真竹」を使って「竹水鉄砲」を作成しました。
コロナ禍の前は、近隣の小学生やその保護者を招いて「サル山水合戦」を開催していましたが、本学ではまだ学外者が入構することができません。しかし、将来的な再開に向けて、学生間でその経験や技術を受け継いでいけるように、竹水鉄砲を作製しながら、過去に開催した時の様子やそこでの工夫について情報共有をしました。

当日の様子を YouTube で 公開中！

Voice

01 今回は竹の伐採から水鉄砲作りまでの行程をチームで行ったが、協力して比較的スムーズに完成に至れた点は良かった。竹を伐採する際に古い竹を区別するなど、今後の活動においてまだまだ学ぶべき点が多いと感じた。

02 これまで話してこなかった色々な人と、水鉄砲作りを通して交流することができた。
これを足がかりに縁を紡いでいきたい。

October 03 Sunday

地域ボランティアプログラム （松本日向緑地プログラム）

「竹林整備」

南大沢キャンパス内 松本日向緑地

毎年「たけのこ掘り」を行うエリアで、竹の間伐作業を行いました。このエリアに生えているのは、前回伐採した「真竹」よりも二回り以上太い「孟宗竹（モウソウチク）」です。竹が密生しているエリアでの作業だったため、伐採した竹が他の竹や樹木の枝に絡まってなかなか倒れないこともありましたが、複数人で竹を支えたり、動かしたりしながら作業を進めていきました。

当日の様子を YouTube で 公開中！

Voice

01 かなり太い竹を一人で切るのは大変だと思っていたが、案外上手くいって楽しかった。ただやらされるボランティアではなく、自分で楽しみながら挑戦していけるボランティアだったと思う。

02 初めて竹を伐採したが、周囲の人の助けによって楽しく安全に活動できた。次回からは一人で竹を切るということなので、今日の感覚を忘れないようにしたい。

October 09 Saturday

スポーツボランティアプログラム

「東京八王子ビートレインズ ホームゲーム運営」

エスフォルタアリーナ八王子 メインアリーナ

プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」の3部に所属する「東京八王子ビートレインズ」のホームゲーム運営にボランティアとして5名の学生が参加しました。
試合中は主に入場受付エリアを担当し、チケットもぎりやマッチデイプログラムの配布などを、試合後には会場設備の撤去作業を行いました。
ホーム開幕2連戦で唯一の休日開催だったこともあり、通常の試合よりも観客数が多い中、入場受付を担当していたことで来場者の方々との接点が多かったのですが、とてもいい雰囲気でコミュニケーションを取ることができました。

Voice

01 プロスポーツチームの裏側を見るのは初めてだったので、どれだけ多くの人が関わっているのかを実感することができた。運営には非常に多くの手間がかかっており、とても大変だったが、観客が楽しんでいる姿を見ることで大変さを和らげることができた。

02 試合の様子を観ていると1プレー1プレーに、人気チームの試合と同じくらいの熱気が選手にも観客にもあって、とてもいいチームだと思えた。そんなチームに貢献できたことが嬉しく、またお客さんに会釈を返してもらったり、感謝の言葉をいただいたりして、とても温かい気持ちになった。
お客さんの笑顔を見ていると地域の活性化にも貢献できたのではないかと思った。

October 17 Sunday / October 26 Tuesday / November 5 Friday

スポーツボランティアプログラム

「みんなといっしょの運動会 （主催 ： 日野市社会福祉協議会）」

社会福祉法人 東京光の家、 社会福祉法人 東京都社会福祉事業団 日野療護園、 社会福祉法人 夢ふうせん

「みんなといっしょの運動会」は、スポーツを通じて、障がいのある人もない人もみんなで交流できる機会として開催されています。実施競技をボッチャに絞った今年は、開催日が緊急事態宣言の影響により延期となっていましたが、同宣言が解除された10月以降、日野市内にある社会福祉施設を中心に延期していた同運動会が開催されましたので、その中の3回にプログラムのメンバーが参加し、ボッチャ競技の運営をしてきました。

Voice

01 視覚障がいのある方が参加されていたので、伝え方に気をつけて行ったつもりであったが、もっとわかりやすく具体的に伝えられたらよかったと思う。実際、「ちょっと左」や「もう少し弱く」などちょっとや少しの加減が伝えられる側としては分かりづらかったと思うので、「〇〇なん個分」や「体の長さ？」を使って表すことが参考になった。
また、会場に楽しげな音楽が流れてたり周りの人の掛け声などで一体となった雰囲気を作り出すことも大切だと思った。今回は鷹藤さんが競技を回してくれていたが、説明の仕方や盛り上げ方がとても勉強になった。今日は自分としても楽しんで参加できて良かったし、視覚障がいのある方々の感覚というか、センスが素晴らしくて感心した。

02 全体の活動を通して大会の雰囲気を作るということも非常に重要なのではないかと気づいた。次回からも、声がけや実況の歓声など体や声を使って盛り上げられるようにしたいと感じた。

全国公立大学学生大会「LINKtopos2021」が今年もオンラインで開催！

東日本きずなプロジェクトの学生が、ポスターセッションやワークショップなどに参加し、全国から集まった公立大学生と交流しました。

9月14日（火）～16日（木）の3日間、岩手県立大学が拠点校となり、「全国公立大学学生大会（通称：LINKtopos2021）」がオンライン（主に Zoom ミーティング）で開催されました。
今年のテーマは【あれから、これから】です。東日本大震災から10年が経ちましたが、そこでの教訓を改めて共有しながら、災害が起こる前やその最中、さらにコロナ禍において、自分に何ができるのか、自分たちは何に取り組むのかを考えました。
昨年度に引き続き、岩手県大槌町を中心に被災地を訪れながら東北の魅力を発信してきた「東日本きずなプロジェクト（本センター学内登録団体）」の学生5名と、ボランティアコーディネーターが参加しました。

学生が企画・運営する「LINK topos（リンクトポス）」

「公立大学学生ネットワーク」は、東日本大震災の際にボランティア活動を行った全国の公立大学の学生らが公立大学協会主催の復興支援に関するシンポジウムに集まったことをきっかけにして始まりました。

同ネットワークでは、年１回、LINKtopos（リンクトポス：全国公立大学学生大会）を開催し、災害支援・防災に留まらず、地域活動を行っている学生らが全国から集まり、ワークショップ等を通じて研鑽・交流を図っているほか、各地域における学生間交流を行っています。

（一財）公立大学協会 Web サイト（http://www.kodaikyo.org）より

準　備　ポスターセッションに向けた発表資料の作成

今回の参加者には、昨年度参加した学生もいましたが、今年度新たに団体に加入した学生が多かったため、まずは昨年度の様子を伝えるところから始めました。その後、今回の LINK topos に「東日本きずなプロジェクト」のメンバーとして参加する意義を確かめたうえで、発表資料の作成に取りかかりました。
発表資料の作成にあたっては、他団体に何をどのように伝えたいのかを考えたうえで、これまでの活動をまとめたスライドを作成したのですが、当日の質疑応答を想定し、様々な質問に答えられるようにと、先輩が後輩へ過去の取組の目的や内容を丁寧に伝えている様子が印象的でした。

元々は他団体のことを知りたいと考えて「LINKtopos」に参加したが、発表資料を作る過程できずな（東日本きずなプロジェクト）について深く知れたことが予想外の収穫だったと感じた。

Day 1　ポスターセッション

１日目は、６大学から８つの学生団体が参加し、それぞれの活動についての発表や意見交換をし合うポスターセッションが開催されました。地域の実情に応じた工夫や課題を交えながら情報共有しました。
発表後の質疑応答では、今回使用した「oVice」というツールの特長を生かし、話を聞きたい団体の場所に各自が自由に移動して、意見交換をしました。

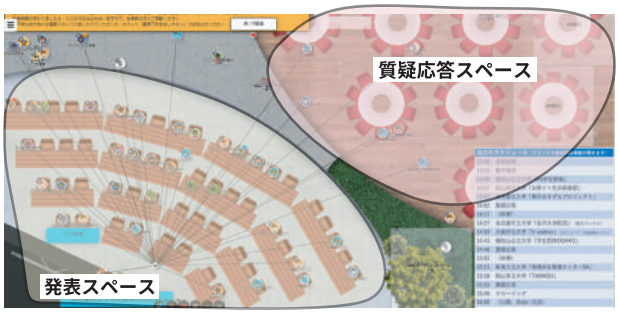
他の団体について知るのは面白かったし、
自分たちがこれからどうしていきたいか想像を膨らませることができた。

▲東日本きずなプロジェクトの発表の様子

自由に動いて話しかけられるバーチャル空間「oVice」

「oVice（オヴィス）」は、ウェブサイト上で自分のアイコンを自由に動かし、相手のアイコンに近づけることで簡単に話しかけられるバーチャル空間です。話している相手に近づくと声は大きく、遠ざかると声が小さく聞こえるため、対面で直接話しているような感覚を味わうことができます。

今回のポスターセッションは、全員で発表を聞く「発表スペース」と、関心のある団体の近くに集まり、自由に質問や意見交換することができる「質疑応答スペース」を分けて行われました。



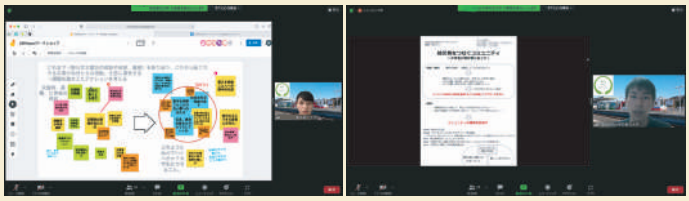
▲発表スペースに参加者が集まり、発表を聞いている様子

Day 2　講演＆ワークショップ

2日目は、「ゲストスピーカーによる講演」に加え、所属大学・団体がバラバラに分かれたうえで、与えられた課題に取り組む「ワークショップ」が開催されました。
参加者全員が参加した「ゲストスピーカー講演」では、昨年度まで「いのちをつなぐ未来館（岩手県釜石市）」でガイドを務め、今年度から「株式会社 8kurasu（はちくらす）」の防災教育推進担当として、防災教育や地域防災などに取り組んでいる菊池のどかさんから、東日本大震災当時のお話や復興・防災における現地の様子などについてお聞きしました。
時間いっぱいまで質問が出るほど参加者の関心は高く、この教訓を未来にどうつなげていくのかについて深く考えていました。

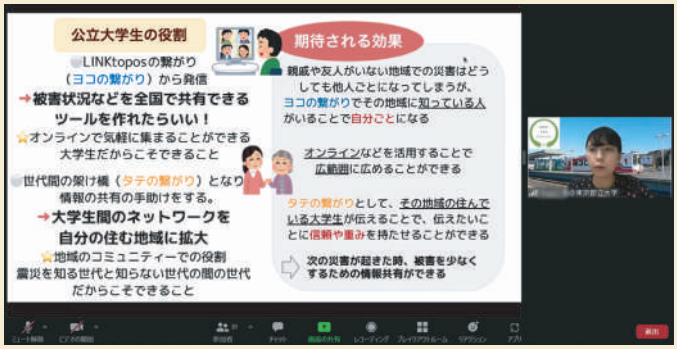
ワークショップで行ったのは、「これまでを振り返り、これから起こりうる災害や自分たちの活動・生活に還元するためのポスター作り」です。「配慮・ケア」「復興・町おこし」「コロナ禍」の各テーマに分かれ、6～7人程度の小グループで【ブレインストーミング→課題設定→解決方法の検討→ポスターにまとめる】といった一連の活動に取り組みました。

議論の出発点として、扱うテーマにおける課題を共有した際には、意見交換を通してそれぞれが活動している・住んでいる地域ごとに、文化や習慣、生活環境、受けてきた教育内容などが違っていることが分かりました。「災害」について考えるといっても、沿岸部の地域では津波が、山間部では土砂崩れが豪雪地帯では大雪による雪崩や交通事故が喫緊の課題として挙がり、それぞれが身近な課題としてイメージするものが異なります。
各々が初対面ということもあり、その違いを認め合い、生かし合いながらグループの合意形成するのに苦慮していましたが、積極的にコミュニケーションをとりながらポスターを作成していました。


▲中間発表で進捗状況の共有をする学生の様子

Day 3　ワークショップの成果発表

3日目は、前日のワークショップの成果発表が行われました。最初に分かれた3テーマそれぞれで発表し合い、その後投票を経て、各テーマの代表グループが、参加者全員が集まる全体の場で発表します。
完成したポスターやその発表を聞くと、グループごとに課題に感じているものやその解決の方法などが異なっており、そこから新たな気づきや刺激を得ることができました。さらに、どのグループもポスターの作り方（伝え方・魅せ方）にもこだわっており、議論以外にも多くの学びも得ることができたと思います。



▲成果発表をする学生の様子

最初はなかなか、どのような発表にするか定まらなかったが、話し合いをしていく中で徐々に内容の具体性が高まっていったことが印象的だった。
また、全体発表ではどの団体もポスターのクオリティが高かったことも印象的だった。

初対面の人とのグループでの関わり方の難しさを共有し、東日本きずなプロジェクトのみんなで考えることで、参加してない人も含め、LINK topos以外の場（ワークショップなど）でも強さを発揮できるようになったら良いなと思う。

全体を通して

毎年違うメンバーでWSを行うことの楽しさを知った。違うメンバーだからこそ自分の立ち位置も変わるし、自分にできることが新たに見つかって、自分の成長に繋げられたWSだったと思う。
講演会もとても心に残り学びの多い内容だった。参加できてとてもよかった。

3日間、正直パソコンの画面をずっと見ているのは辛いし、疲れた。
しかし、菊池さんや高橋さんの講義を聞けて本当に良かったし、事前準備とWSで自分の気づかない視点にたくさん触れることができて、有意義に過ごすことができた。

今回の LINKtopos を通じて、きずなのことも他団体のことも幅広く知ることができました。これからきずなで活動していく中で活きるような、様々な経験や視点を得ることができたので、参加して良かったです。

ワークショップの成果発表を聞いて、自分では思い付かないような考えや発想がたくさんあって大変興味深かった。
また、発表された分野に詳しい先生方が、コメントとして、実際の実情や課題、補足などを話してくださり、自分の知らない部分でのボランティア活動や地域の取り組みの現状について、新たな知識を得ることができた。

はじまってしまったらあっという間に終わってしまった LINK topos。無事に終わったことの安心感と、ワークショップでもっとこうしたかったな、とか、他の班に負けて（全体の発表者に選ばれなくて）悔しいな、とか色々引っかかりがぐるぐるしている面もある。そういう色々な感情も含めて、次に生かせる良い経験だったと思う。
この経験を自分たちだけのものにせずしっかりきずなのメンバーに共有して、団体としての経験にかえていきたい。

I am a Volunteer

都立大生が取り組むボランティア活動を紹介！

～節足動物にちょっと詳しくなれる。節足動物の魅力に触れられる。～

『節足動物園』のオンライン開園を目指して

いきもの！サークル東京

沓掛 丈（くつかけ じょう）さん
理学部 生命科学科４年

節足動物を節足動物として展示し、その魅力や知識を発信する施設が必要だ

私が所属する「いきもの！サークル東京」では、コムカデ、アリ、クモ、クワガタなどの節足動物、植物、両生類や魚 …などなど様々な分野のいきもの好きが集まって、様々な活動をしています。

「いきもの!サークル東京」立ち上げの経緯

2018年度の初め、当時の生命科学科の2年生が生物好きのためのサークルを作ろうと呼びかけを行っていました。
一方その頃、入学したての1年生だった私も同時期に『節足動物園』という企画をスタートさせるためのサークルを作ろうと呼びかけていたのです。そこで、その2年生から「生物好きのサークルを作った上で、サークル内の企画として節足動物園をやったらどうか」と提案していただき、それぞれが呼びかけた学生全員で1つのサークルをつくることになりました。
そうして立ち上げたのが、「いきもの!サークル東京」です。サークル名は、「堅苦しくないとっつきやすい名前にしよう」「当時の大学名“首都大学東京”と結びつけよう」という方針で名付けました。

コロナ禍のサークル活動

現在は、「Slack」というツールを使用し、メンバー同士の情報交換をインターネット上で行っています。そこで生物に関連する活動をそれぞれが企画し、それを見て共感したメンバーがその企画に参加するというのが活動までの主な流れです。
これまでに、節足動物の展示を通じて生物学的知識の教育普及を行う「節足動物園」や、南大沢キャンパスの松木日向緑地にある廃田を湿地性ビオトープとして整備して環境保全と利用に役立てる「谷戸田ビオトープ」、国立公園などの自然豊かな場所で生物の観察を行う「合宿・観察会」などを企画・実施しました。
コロナ禍が始まった頃は、ほとんどの活動が一時停滞してしまいましたが、現在は活動を見直しながら、人数を制限して行ったり、話し合いなどの現地でなくとも進められることに取り組んだりしています。
合宿等にも行けていませんが、Zoom上で生物に関する論文を読みあったり、自宅で飼育している生物の観察成果を見せ合ったりして、好奇心を満たし知識を深めながら、みんなで楽しく活動を続けることができています。

出張展示先での様子

オオムカデと出会い、オオムカデから学んだ高校時代

私は幼少期に「ムシキング（ムシカードで遊ぶアーケードゲーム）」などにハマったことから、節足動物の一部である「昆虫」に興味をもち始めるようになりました。
現在のように「節足動物」として興味をもったのは、高校1年生の冬からです。
当時私が通っていた高校には、理数自主研究というカリキュラムがあり、高校3年間を通して、一人ひとりが自分で決めたテーマで研究を行っていました。
私は当初、植物に興味が移りつつあったため、植物の生態を研究するためにプランターを使って植物を栽培していました。
そんな冬のある日のこと、植物の整理をするためにプランターをどけると、その下に大きな「オオムカデ」がいたのです。
オオムカデのことを“危険な害虫”と思っていた当時の私は、驚きと恐怖で飛び上がってしまいました。
そんな中、近くで飛び上がっている私をよそに、オオムカデは全く動きません。冬眠していたのです。私は、自分が知っている姿とはあまりにもかけ離れているオオムカデを前に、急激に興味が湧いて、いてもたってもいられなくなり、そして、そのままそのオオムカデを飼育し、観察するようになりました。
「オオムカデ」は見れば見るほど“美しく”“不思議な色形”をしており、私はそれにすっかり魅了されました。これが昆虫から「節足動物」への広がりを見た最初の出来事でした。
その後、私はムカデにのめり込み、ムカデに咬まれることさえ嬉々として受け入れていました。野外でムカデを見つければ、手づかみで捕まえ、手の上を這わせました。そんなある日のこと、私はムカデの毒で“アナフィラキシーショック”を起こして

しまいます。一時的に意識が朦朧となり、息苦しくなって、「死んでしまうかもしれない」と感じる経験をしました（実際に死ぬこともあります）。
この時までの私は、知識を収集することもなく、ただムカデを好きでいるだけでしたが、この経験を通して「ムカデの危険性をあまりにも軽視していた」のだと自覚しました。この一件で、医者や先生から「ムカデには関わるな」と言われてしまい、先生からはさらに「ちゃんと知識をもって生物と向き合え」と言われました。大好きなムカデと関わることができなくなった私は、ムカデ以外の研究対象を探さねばならなくなったのです。
これを機に、「ムカデ以外にはどんな生物がいるのだろう」「きっとムカデの他にも私の知らない生物はいるはずだ」と考え、生物の種類を広く知ろうと勉強を進めていきました。
そうしてたどり着いたのが「系統分類学」です。「節足動物」という分類群こそが、私の好きな生物の集まりとして最も適合していることを知りました。

単純に“学ぶ機会”がなかった

「節足動物」という分類群を知ることにより、身近で一緒に生きている動物のほとんどが節足動物であると気づき、かれらが実に魅力的で尊い存在であるということが分かりました。
「もっと早くこの分類群を認知したかった」と思うようになって、「なぜ知らなかったか」を振り返ってみると、単純に“学ぶ機会がなかった”ことに気付きました。生物を知る上で重要な役割を担う施設について考えてみても、動物園に行けば脊椎動物、昆虫館に行けば昆虫、水族館では水に住む生物限定の展示で、節足動物を節足動物として見せる施設はありません。
これらの現実や自らの経験から、「節足動物を節足動物として展示し、その魅力や知識を発信する施設が必要だ」と考え、『節足動物園』開園を目指すようになりました。

節足動物園の開園

2019年度に東京都立大学の大学祭「みやこ祭」の企画として開園した『節足動物園』では、教室2部屋を使った節足動物の展示や、フリーマーケットでのグッズ（学習に役立つもの）提供を行いました。

2019年度に大学祭で実施した『節足動物園』の様子

70ものテーマからなる合計114種の生体と237種の標本の展示は、サークルのメンバーで協力し合い作り上げたものです。A2版に印刷した大きな拡大写真を看板として掲げて目を引くようにしたほか、ふれあいや観察、仕掛けパネルといった工夫も凝らすことにより、ボリューミーで魅力的に仕上げることができました。このかいあって、3日間の短い開園にもかかわらず、2743人もの方々にご来園いただくことができました。出口で実施したアンケートでは、「解説を読んだか」「解説はわかりやすかったか」のいずれについても最上評価（5段階中の5）の割合が最も高く、「解説を読んだ、または少し読んだ人」は82%、「解説をほとんど理解した、または理解した人」は84%にもなりました。このことから教育普及活動として大きく成果を上げることができたと考えています。
その他、記述部分では「いろんなことが、しれてたのしかった」「実際に触れてよかった」「わかりやすい!!展示が見やすくておしゃれ、すごい!」といった感想をたくさんいただき、『節足動物園』を通して、節足動物の魅力と生物学の知識をしっかりと発信できたという手応えを得ました。

オンライン節足動物園の公開

コロナ禍以降は、出張展示や生物系即売会でのグッズ販売、「みやこ祭」が開催されず、一時は完全に活動の場が失われてしまいました。
一方、社会ではテレワークなどのオンライン活用が急速に進んでいました。それをヒントに、スタートさせたのが、節足動物園の「オンライン開園計画」です。
現在公開している「節足動物園 web サイト」では、来園者（=閲覧者）が、いつでも好きな場所から訪れ、見て回れるような展示をしています。
Web サイト制作に関する知識はほとんどありませんでしたが、これを期に勉強し、少しずつ作りました。制作時に工夫したのは、オンライン環境でも楽しく見やすい展示にすることです。見たい展示を選ぶページでは、オフラインの展示のように看板となる写真や画像を用意し、それを前面に押し出したリストを表示することで、視覚的に選びやすくしています。
また、実物を見ることができない点を考慮し、各展示内で標本や生体の拡大写真や、行動動画を閲覧できるようにしました。他にも、ライブカメラの導入というオンラインならではの取組により、昼夜関係なくアフリカオオヤスデの様子を観察できるようにしています。
web サイトは昨年9月から開発し、今年4月にひとまず公開しました。少しずつ拡充しながら、今では24テーマの展示と2種の節足動物観察ページを実装しています。
今後は内容の拡充に加え、コメントや評価機能を実装して、来園者側からのフィードバックを受けられるようにしたいです。
また、現地での節足動物園開園を見据え、オンラインと現地の節足動物園が連動するような仕組みも検討していきます。
コロナ禍に生まれたオンラインでの節足動物園ですが、コロナ禍とともに終わってしまうことはないようにしたいですね。

『オンライン節足動物園』
https://arthropodzoo.com/web/whatis.html

01

11月28日（日）開催

オンラインで学び、考えよう！「音をからだで感じるデバイス“Ontenna”の開発と社会実装」

音をからだで感じるユーザインタフェース「Ontenna（オンテナ）」の開発者である本多達也さん（富士通株式会社）をお招きし、オンラインで学び、考えよう！「音をからだで感じるデバイス“Ontenna”の開発と社会実装」を開催します。

当日は、開発の経緯やそのきっかけとなった学生時代のボランティア活動や社会実装に向けた取組等についてお話しいただきますので、ぜひご参加ください！

開催日：2021年11月28日（日）14：00～15：30

会場①	＋	会場②
東京都立大学 南大沢キャンパス 本部棟 2階 特別会議室 定員：30名　都立大生限定		オンライン（Zoom ミーティング） 定員：100名　どなたでも

主　催：東京都立大学ボランティアセンター
協　力：東京都立大学ダイバーシティ推進室

お申込みや企画の詳細はこちらから
参加費：無料

講師プロフィール

本多 達也さん

富士通株式会社 未来社会＆テクノロジー本部
Ontenna プロジェクトリーダー

1990 年香川県生まれ。大学時代は手話通訳のボランティアや手話サークルの立ち上げ、NPO の設立などを経験。人間の身体や感覚の拡張をテーマに、ろう者と協働して新しい音知覚装置の研究を行う。2016 年度グッドデザイン賞特別賞。
Design Intelligence Award 2017 Excellcence 賞。

「Ontenna（オンテナ）」は、髪の毛や耳たぶ、えり元、そで口などに身に付け、振動と光によって音の特徴をからだで感じる全く新しいユーザインタフェースです。ろう者と健聴者が共に楽しむ未来を目指し、ろう者と協働で開発されました。
60 ~90 dB の音を256段階の振動と光の強さに変換することで、音のリズムやパターン、大きさを知覚することができます。

情報支援ツール

会場①（対面）、会場②（オンライン）ともに「captiOnline（キャプションライン）」を使用し、リアルタイム字幕を表示します。

captiOnline

「captiOnline」は、つくば技術大学の若月大輔先生が開発した「Web ブラウザを用い、オンラインで文字通訳を行うことができるシステム（無料）」です。（https://capti.info.a.tsukuba-tech.ac.jp/）

02

回答受付期間：2021年10月11日（月）～11月19日（金）

東京2020大会に関わるボランティア活動について Web アンケートにご協力ください！

本センターが実施してきた東京2020大会に係る取組について振り返ることで、センターとしてサポートしてきた学生が大会にどのように関わったのか、またそこまでの過程で本学・本センターがどのようなサポートをできたのかを把握し、今後の取組に生かしていきたいと考えております。アンケートへのご協力をお願いいたします。

《実施目的》
大会に向けたボランティア活動支援の取組を振り返るとともに、今大会における学生（一部卒業生を含む）について、その活動参加実態を調査することにより、これまでの本センターの取組の成果と課題を把握し、それらをレガシーとして今後の取組に生かすこと。

《対象者》
都立大生（学部生、大学院生、プレミアム・カレッジ生）及び都立大卒業生のうち、
A. 東京2020大会に関わる活動にボランティアとして申し込んでいたが、活動しなかった（辞退など）方
B. 東京2020大会に関わる活動にボランティアとして申し込み、予定通り活動した方

Web フォームから回答をお願いいたします

※ いただいた回答データは、本センターで保管・活用させていただきます。本センターに関わりのない組織・事業で活用することはありません。
※ データを活用する際に、個人が特定されるようなことはありません。

03

7月2日(金)、11月11日(木)　ボラセン YouTube チャンネルにて、後日アーカイブを公開

都立大生に聞く！「ボランティアからつながる一歩 - ボランティア経験者が語るここだけの話 -」

学内の団体に所属し、ボランティア活動に取り組んでいる都立大生から、活動内容やその魅力、さらに「参加したきっかけ」や「大学で学ぶ学問にどう活かされているか」などの個人的な視点をもとにした想いや考えをお聞きするオンラインイベントを開催。

7/2（金）に開催した第一回のゲストとして、東北の魅力発信や復興支援に取り組む「東日本きずなプロジェクト」の西山千晴さんに、11/11（木）に開催した第二回のゲストとして、相模原市で中学生の学習支援や居場所づくりに取り組む「SCOK」の横山水音さんにご出演いただきました。

ゲスト
西山 千晴さん
- 健康福祉学部 放射線学科 3年
- 東日本きずなプロジェクト 代表

ファシリテーター
宮崎 仁美さん
- システムデザイン学部 インダストリアルアート学科 4年
- 学生コーディネーター

ゲスト
横山 水音さん
・人文社会学部 人間社会学科 3年
・SCOK 都立大 代表

ファシリテーター
味野和 豊さん
・人文社会学部 人間社会学科 4年
・学生コーディネーター

表紙の人

競技チアリーディングサークル WILD BOARS（ワイルドボアーズ）

「競技チアリーディングサークル WILD BOARS」では、関東大会の出場&年に一度開催する単独公演と大学祭「みやこ祭」で最高のパフォーマンスをすることを目標にして、練習に励んでいます。
上下関係一切なく、いつも笑顔が絶えないとってもアットホームなチームです。なんと、部員は全員チアリーディング未経験者でした！

チアリーディングは一人一人の特性を活かして全員が色んな輝き方をできる最高に楽しいスポーツです！大学生活、私たちと一緒に青春しましょう。

第2回単独公演「猪祭（ぼあさい）」の開催決定！！

開催日：2021年12月18日（土）
時　間：19時頃の開演を予定
会　場：南大沢文化会館 主ホール
入場料：無料

＼最新情報は、SNS でチェック！／
Twitter　Instagram

東京都立大学ボランティアセンター News letter
『都立大ボラセン』vol.1

東京都立大学 Volunteer Center

[企画・制作・発行]
東京都立大学ボランティアセンター
[発行月]　2021 年 11 月

所在地：東京都八王子市南大沢 1-1
南大沢キャンパス 1 号館 1 階
TEL：042-677-1354 / FAX：042-677-1812
メール：tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp
Web サイト :https://volunteer.tmu.ac.jp
Twitter :@tmu_volunteer